

# 2022 年度室内楽オーデション 合格者による大学院室内楽コンサート

2023 年 2 月 27 日 (月) 18 : 30 開演 (18 : 00 開場)

洗足学園 前田ホール

R. シンプソン / 4 本のトランペットのためのソナチネ  
速水 力(Tp) 濱次 直毅(Tp) 長田 彩希(Tp) 佐藤 心(Tp)

J-M. ダマーズ / フルート、オーボエとピアノのための三重奏曲より  
LEE CHIHHAO(Fl) 佐藤 千尋(Ob) 野田 めい(Pf)

J. アンデルセン / 軍隊風アレグロ 作品 48  
石井 優菜(Fl) 間木平 美和(Fl) 樋口歌織(Pf)

— 休憩 —

R. シューマン / おとぎ話 作品 132  
加藤 可奈子(Va) 元村 理乃(Cl) 加藤 幸恵(Pf)

H. ジョンソン / フルートとオーボエとピアノのための三重奏曲  
村松 紀親(Fl) 河村 真歩(Ob) 見原さやか (Pf)

## ～ごあいさつ～

本日はご来場頂き、ありがとうございます。

洗足学園音楽大学・大学院では「室内楽研究」をレッスン形式で行っております。年度末試験によって優秀グループを選抜しました。本日演奏する 5 つのチームは試験の評価上位に選抜された優秀な学生達であります。御来場のお客様には、今後楽壇に羽ばたく若人を温かい拍手で見守っていただきたいと思います。

洗足学園音楽大学・大学院教授  
室内楽研究運営委員会委員長  
渡部 亨

### △新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでの飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

主催：洗足学園音楽大学・大学院

## R. シンプソン / 4本のトランペットのためのソナチネ

Ron Simpson によって作曲されたトランペット 4 重奏の曲です。

全体を通して統一感のあるメロディ、ハーモニーで聴きやすく、急、緩、急の全 3 楽章構成となっております。トランペットアンサンブルといえばこの曲と言われる程親しまれています。演奏時間は 5 分程度と短めです。

第 1 楽章はトランペットらしい華やかで軽快なファンファーレ風のメロディと各セクションの力強いベルトーンが印象的です。

第 2 楽章は 1st のバラード調の旋律を歌っている裏で、2nd、3rd、4th がハーモニーを作っており、その 2 つの動きにより曲が出来上がっています。第 1 楽章とは対極の静かで美しくロマンティック雰囲気を持つ楽章となっています。

第 3 楽章は第 1 楽章の再現のような軽快な冒頭で始まり、第 2 楽章の美しさを思い出させるような流れるような中間部を併せもつ最後にふさわしい楽章となっています。

曲の難易度はそれほど高くはなく、演奏時間も長くはないため、アンサンブルを始めたばかりのアマチュアの方にも親しみやすい曲となっておりますが、シンプルだからこそ少しのミス、ハーモニーが決まらなかった時が際立つ恐ろしい曲です。

(Tp. 長田 彩希)



速水 力

長田 彩希

佐藤 心

濱欠 直毅

洗足学園音楽大学大学院トランペット科 1 年速水力、濱欠直毅、佐藤心、長田彩希によって結成された室内楽のチームです。

東京音楽大学、武蔵野音楽大学、大阪教育大学、洗足学園音楽大学と 4 人異なる大学を卒業しています。

それぞれ、かなりのオタク気質で個性が強く、自由な性格をしている為、普段まとまりが無いように見えますが、やる時はやる人たちです。

## J-M.ダマーズ／フルート、オーボエとピアノのための三重奏曲より第1、2楽章

ジャン＝ミシェル・ダマーズは1928年1月27日フランスの南西部に位置するボルドーで生まれました。母親はフォーレやラヴェルの作品を初演した有名なハープ奏者でミシュリーヌ・カーンです。パリに移ったダマーズは5歳の時にマルセル・サミュエル＝ルソーにピアノとソルフェージュを習います。9歳の時にマルグリット・ロンにピアノの才能を認められ1937年のパリ万博でミヨー、プーランク、ソーゲなどの作品を演奏しました。12歳でエコール・ノルマル音楽院に入学しコルトーに習い、翌年パリ音楽院に編入しアルマン・フェルテのピアノ・クラスに入りました。ピアノをコルトーに作曲をアンリ・ビュッセル、和声・対位法をマルセル・デュプレに習いました。1943年15歳の時ピアノで1等賞を取り19歳の時に室内楽曲で作曲の1等賞をカンタータでローマ大賞を取りました。卒業後作曲を中心に活動していたダマーズはピアノ、フルート、ハープを中心とする器楽・室内楽曲を重点的に作曲し、2013年4月21日の亡くなるまでおよそ300もの作品を残しました。

今回披露する曲は彼が41歳の時に作曲された楽曲です。第1楽章では、冒頭ピアノの重々しい不協和音の上にフルートとオーボエの反進行の主題で現代的な響きを持って進んでいきます。次のAllegroでは冒頭と大きく変わり軽やかなピアノの分散和音の上にフルートとオーボエが入れ替わりで数々の主題を彩ります。後奏のModeratoでは主題の1部が再現され冒頭の動機が再現され静かに終わっていきます。

第2楽章はピアノの行進曲風の付点音符から始まり、第1楽章とは違い快活に始まります。フルートとオーボエが短い動機をお互いに受け渡しながら主題が進んでいきます。中間部ではオーボエのソロで俗物的で自由な旋律とピアノの軽快なリズムが合わさっていき、オーボエからフルートに主題が引き継がれます。お互いに掛け合いをしながら最後、牧歌的で穏やかな旋律に落ち着き、第1楽章の変奏主題で曲が閉じます。

(Pf. 野田 めい)



### 李 治皓 (Fl.)

台湾高雄市出身。14歳よりフルートを始める。東京大学大学院工学系研究科修士課程修了。現在洗足学園音楽大学大学院音楽研究科に在学中。これまでにフルートを大森義和、渡部亨、室内楽を渡部亨の各氏に師事。現在多摩ファミリーオーケストラに所属。



### 佐藤 千尋 (Ob.)

埼玉県出身。16歳からオーボエを始める。2021年にエルネスト・ロンバウト氏のマスタークラスを受講。同年に洗足学園音楽大学の室内楽準セレクションチームに選抜された。2022年洗足学園音楽大学を卒業。同大学院に在学中。これまでにオーボエを田淵哲也、辻功、室内楽を渡部亨、山根公男の各氏に師事。



### 野田 めい (Pf.)

静岡県出身。4歳からピアノをカワイ音楽教室にて学ぶ。2020年に洗足学園音楽大学の室内楽準セレクションチームに選抜された。2022年に洗足学園音楽大学音楽学部ピアノコースを卒業。同大学院に在学中。現在ピアノを和田さやか氏に師事。室内楽を古川原裕二氏、星野均氏、渡部亨の各氏に師事。

## J.アンデルセン／軍隊風アレグロ 作品 48

デンマークのフルート奏者、作曲家、指揮者である K.J.アンデルセン(1847-1909)により作曲されました。軍人の父親への敬意を込めてこの曲が作曲されたと言われている。

この曲は単一楽章で構成され、ピアノの駆け抜けるような前奏から始まり、フルートの技巧的で伸びやかなメロディが多彩な性格で奏されていき、中盤にはソロも登場し、勇敢・悲壮・激動の歴史を全て物語っているような聴きごたえも吹きごたえもある曲であり、伴奏部がオーケストラで演奏される事もある華やかな一曲です。

(Fl. 石井 優菜)



### 石井 優菜 (Fl.)

東京都出身。14歳よりフルートを始める。国立音楽大学附属高等学校を経て、国立音楽大学フルート専攻卒業。卒業演奏会、第48回フルートデビューリサイタルに出演。国立音楽大学東京同調会新人演奏会推薦。第24回万里の長城杯国際音楽コンクールアンサンブル一般A部門最高位受賞。現在、洗足学園音楽大学大学院音楽研究科2年在学中。これまでにフルートを菅井春恵、大友太郎、野原千代の各氏に師事。



### 間木平 美和 (Fl.)

神奈川県出身。12歳よりフルートを始める。洗足学園音楽大学管楽器コース卒業。これまでにフルートを菅井春恵、北村史織、黒川智子、室内楽を菅井春恵、山根公男、酒井秀明、ピアノを井上友美、関美奈子の各氏に師事。現在、洗足学園音楽大学大学院音楽研究科2年在学中。



### 樋口 歌織 (Pf.)

東京都出身。国立音楽大学卒業。4歳よりピアノを学んでおり、現在、洗足学園音楽大学大学院2年器楽専攻ピアノコース在籍。第39回ピティナピアノコンペティション連弾上級部門全国大会入賞。大学4年次には、ピアノ専攻4年生による演奏会に選抜で出演。これまでにピアノを佐々木朋枝、米持隆之、白水芳枝、泉ひろ子、泉ゆりのの各氏に師事。



## R.シューマン／おとぎ話 作品 132

ドイツの作曲家であるシューマンによって 1853 年に彼の晩年に書かれた曲である。1853 年と言えば、シューマンが若きブラームスと出会い、彼の音楽性に将来の希望を見出した年でもあった。その一方で数年来、心身の不調を抱え続けてきたシューマンは、翌 54 年にはライン川への投身自殺を図り、エンデニヒの精神病院に収容されてしまう。しかしこの作品は、そんな暗い影の片鱗すら感じさせないほど穏やかで美しく、ロマン的な曲想が羽ばたいている。

ヴァイオラ、クラリネット、ピアノという珍しい編成の室内楽である。ヴァイオラとクラリネットは音域が近く、それに心地よく軽やかなピアノ伴奏も重なり、その重なった音が明るさや優しさ、そして時には不安や暗さも表現し息の合った掛け合いをみせる。全章を通して穏やかで、独特な内向的な美しさもあり、ときには激しく、ロマン的な曲想である。晩年のシューマンの作風そのままに、内に秘めた優しさも感じられる。

第一楽章 Lebhaft, nicht zu schnell(生き生きと、速すぎないで)

第二楽章 Lebhaft und sehr markirt(生き生きと、そしてきわめてくっきりと)

第三楽章 Ruhiges Tempo, mit zartem Ausdruck(落ちついたテンポ、繊細な表現で)

第四楽章 Lebhaft, sehr markirt(生き生きと、きわめてくっきりと)

同一の主題で結ばれた全 4 楽章からなる。

この曲は、弟子のアルベルト・ディートリヒに友情を込めて献呈された。

(Va. 加藤 可奈子)



### 加藤 可奈子 (Va.)

島根県出身。9 歳より出雲芸術アカデミー音楽院にてヴァイオラをはじめ。洗足学園音楽大学にオーケストラ特待生として入学。現在同大学院 2 年に在学中。これまでにヴァイオラを井川晶子、生原幸太、室内楽を安藤裕子の各氏に師事する。現在、ヴァイオラを井野邊大輔氏に師事。



### 元村 理乃 (Cl.)

1 歳半よりリトミックを、12 歳よりクラリネットを始める。これまでに、クラリネットを小野寺緑、松本健司、亀井良信、室内楽を松本健司、菅井春恵、大浦綾子、安藤裕子、ピアノを千歩紗織、北村弥生、塩塚美知子、ソルフェージュを荒玲子の各氏に師事。第 29 回日本クラシック音楽コンクール全国大会に出場し、優秀賞を受賞。洗足学園音楽大学管楽器コースクラリネット専攻卒業。現在、洗足学園音楽大学大学院音楽研究科器楽専攻管楽器コース 2 年在学中。



### 加藤 幸恵 (Pf.)

横浜市出身。5 歳よりピアノを始める。洗足学園音楽大学ピアノコース卒業。現在同大学院ピアノコース在学中。大学内においてグヤーシュ・マルタ、ルイス・フェルナンド・ペレスなどの各氏の特別レッスンを受講。2021 年度特別演奏者認定に選出され特別演奏会に出演。学内アンサンブルコンペティション 2 台 4 手部門にて最優秀賞を受賞。これまでにピアノを根廻真奈美、八島とも子、門倉美香の各氏に師事。室内楽を安藤裕子、大浦綾子の各氏に師事。

## H.ジョンソン／フルートとオーボエとピアノのための三重奏曲

ハンター・ジョンソン(1906～1998)は、アメリカ合衆国の作曲家である。彼の作風は新古典派主義、新ロマン主義音楽、国民学派を折衷したものである。代表作にはバレエ『世界への手紙』があり、クラリネットソナチネやピアノソナタ『ローマのアメリカ人』など、管楽器やピアノの作品も作曲している。本日、演奏する楽曲は『フルート、オーボエとピアノによる三重奏曲』である。この作品は、1954年に作曲されており3楽章で構成されている。第1楽章 Allegro con fuoco は古典的なソナタ形式が用いられており、不規則な拍子の変化と不協和な響きを持った和声が鳴り響く。第2楽章 Adagio serio 是哀愁漂う雰囲気、第3楽章 Allegro molto は軽快なリズムで一斉にユニゾンで主題が奏でられ、スケルツァンドさが際立っている。

この3つの楽章では、拍節感がとても自由自在に変化を見せており、各楽章の主題がより密接に繰り返し用いられ、折り重なりハーモニーを作っているため、よく聴いてみてほしい。

(Pf. 見原 さやか)



### 村松 紀親(Fl.)

静岡県出身。11歳よりフルートを始める。洗足学園音楽大学管楽器コースを卒業。P.タバリオーネ氏のマスタークラス受講。日本フルート協会主催第48回フルートデビューリサイタルに出演。中学校や高等学校で音楽指導を行っている。また、幼稚園や介護施設などで演奏活動を行っている。



### 河村 真歩 (Ob.)

愛知県出身。洗足学園音楽大学音楽学部管楽器コースを首席で卒業。現在、同大学大学院音楽研究科2年。2013年第15回日本ジュニア管打楽器コンクール金賞・文部科学大臣賞、2018年第1回名古屋 International 音楽コンクール管楽器部門第1位。2021ヤマハ管楽器新人演奏会などでソロ演奏。H.シェレンベルガー氏のザハランク音楽講習会受講。オーボエを寺島陽介、鈴木宏子、宮村和宏、辻功各氏に師事。室内楽を松本健司、辻功各氏に師事。



### 見原 さやか (Pf.)

東京都出身、8歳からピアノを始める。都立総合芸術高等学校を卒業後、洗足学園音楽大学音楽学部に入學。アンサンブル・スタディクラスに3年次より在籍し卒業。ピアノを飯野明日香、山岸真由美、室内楽を新居由佳梨に師事。ベートン音楽コンクールベスト30賞受賞、KOSMA音楽コンクールの声楽部門にて伴奏賞受賞。2021年に洗足大学院・藝大大学院交流コンサートに出演。2022年、10月9日に開催された大学院コンチェルトの夕べに出演。室内楽等の演奏活動、ピアノ指導も行っている。現在、洗足学園音楽大学院2年ピアノコース在籍。